

年頭所感

平成 29 年 1 月 16 日付「包装タイムス」（日報ビジネス株式会社刊）

昨年4月に発生した熊本地震では大変多くの方が被災され、いまだに以前の生活に戻れない方も多くおられます。

被災された方々、被災地の方々に心よりお見舞いを申し上げます。

日本保冷剤工業会（JCI）は2008年（平成20年）に当時の保冷剤製造メーカー16社が集まって発足し、変遷を経て現在に至ります。

発足当時の背景として、「食の安全や衛生管理」が問われる食中毒事件などが世間をにぎわし、日々の市民生活の中で、保冷剤が食品衛生用保冷資材として使われる場面が大変増えたことが挙げられます。こうした保冷剤の広がりに伴い、消費者から保冷剤の人体への安全性について、大変多くのお問い合わせを受けるようになりました。

子どもやお年寄り、あるいはペットが誤って保冷剤を食べてしまったが大丈夫か、どうしたらよいか、などです。

食品販売業者、あるいは消費者に、安心安全な保冷剤を提供しようという趣旨のもとに当時の製造会社が集まり、工業会の立ち上げに至ったのでした。

消費者保護の観点から、製品の強度、耐候性、保冷時間などについて保冷剤の工業規格を自主基準規格として定め、その規格に適合した製品だけに「工業会認定マーク」を付与することとし、QRコードとして保冷剤パ

信頼度の高い 優良な製品を提供

ッケージに印刷をすす

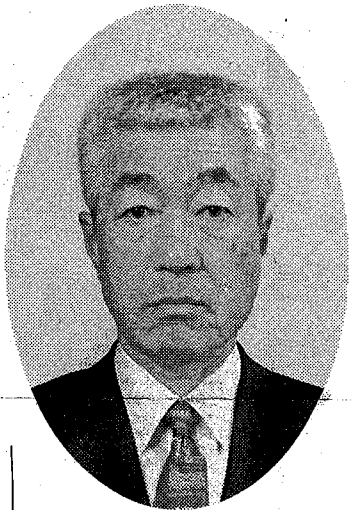
ることを推進して

ます。消費者がこのコードを携帯電話で読み取ることで、加盟各メーカーのWEBサイトに直接つながり、「保冷剤Q&A」のサイトにもアクセスできます。

昨今、家庭の冷蔵庫に知らぬ間にたまって、廃棄方法のことではなく、何か有効利用の方法はないか、捨てないで活用する道はないかというお問い合わせが増えています。

こうした中、昨年当会は、より信頼度の高い優良な製品を消費者に提供し続けることを目的に原材料メーカー各社に賛助会員として工業会参画を呼び掛けたところ、ほとんどが示され手続も終わりました。

資源化リサイクルも視野に入れ、的確に国内外のマーケットの要求に応じていける方々より、従来には得難かった技術支援、情報支援、設備支援を得



日本保冷剤工業会
会長
水田 裕文